

日本科学者会議東京支部主催
第19回東京科学シンポジウム

テーマ 理性と希望の平和な時代を拓く

— 反知性主義・分断・不公正とたたかう —

12月9日(土)～10日(日)

会場 中央大学多摩キャンパス

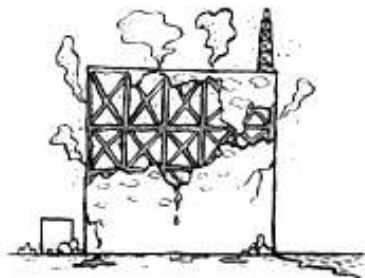
詳しくは、裏面をご覧ください



第5分科会 12月10日(日) 13時～15時15分(3158教室)

パリ協定とエネルギー基本計画

2016年発効のパリ協定は、21世紀の後半には人間による温室効果ガス排出量を正味ゼロにするという野心的な道を示しました。ところが米トランプ政権は6月パリ協定離脱を表明しました。反知性主義の地球環境版とも言えます。でも世界では、2050年までに再生可能エネルギー100%を目指す国や自治体が増えるなど、パリ協定実施に向けて動き出し、脱原発の動きも進んでいます。ところが、日本では原発・石炭火力を維持するエネルギー基本計画が再度作られようとしています。こうした、エネルギーを巡る激動の世界と日本のエネルギー転換の道筋を皆さんと議論したと思います。お気軽にご参加ください。



報告テーマと報告者

- ・パリ協定と逆行する日本のエネルギー・温暖化政策：その現状と今後に向けての課題
明日香壽川（東北大学東北アジア研究センター/環境科学研究科教授）
- ・再エネ100%社会を目指した技術開発動向
佐川清隆（東大院生分会）
- ・2050年に向けた日本のCO₂削減対策
歌川学（産総研）、外岡豊（埼玉大学名誉教授）
- ・電力・ガス小売り自由化、パリ協定に逆行する問題点
石綿勇（武蔵野通研分会）
- ・船舶における排ガス規制の現状（NO_x, SO_x, CO₂）
安達雅樹（運研分会、東京支部幹事、国公研委員会）

多彩な企画でみなさまのご参加をお待ちしています

特別報告 12月9日(土) 13:00～17:00 (3351教室)

1. 世界史のなかの「いま」を生きる—中東・世界・日本のゆくえと「平和憲法革命」の課題—
栗田禎子(千葉大学大学院人文科学研究院教授、歴史学・中東研究)
2. 自衛隊加憲論と政府解釈—平和で公正な社会を考える—
浦田一郎(一橋大学名誉教授、憲法学)

参加費(予稿集代込み)
2000円(一般)
1000円(院生・学生)

詳しくは 日本科学者会議東京支部まで
☎ 03-3811-8281
ホームページ(JSA東京支部で検索)

— 23の分科会で発表と討論 —

- 1: 国連平和への権利宣言とわたしたち
- 2: リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流
- 3: 原発問題を考える文学サロン
- 4: 院生・若手小さな冬の学校
- 5: パリ協定とエネルギー基本計画
- 6: 首都圏の防災・減災を考える
- 7: 「復興」を考える
- 8: 核兵器禁止条約の意義と今後の課題—市民社会の役割に焦点をあてて
- 9: 次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者
- 10: 科学・技術の現状批判—日本の科学技術の健全な発展のための課題
- 11: 軍学共同への抵抗の現段階とこれから—日本学術会議の新声明を受けて—
- 12: 「安倍改憲」、その本質・波及追究と改憲阻止運動の課題
- 13: 科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る
- 14: 支部活動の拡大強化・活動活性化のために
～日本科学者会議 50年の歴史から教訓を求めて～
- 15: サイバー空間の平和利用のために
- 16: IT技術と教育・労働・社会生活
- 17: 暴走する安倍教育行政ストップ、憲法を基本にした教育再生を!
- 18: 築地市場の豊洲移転 築地市場存続の意義と豊洲市場移転のデメリット
- 19: 国民生活向上の経済運営はいかにあるべきか
- 20: 非正規雇用問題を考える
- 21: 暴走する大学「改革」の諸問題
- 22: 若手活動の取り組みから見る支部活動
—JSA内外の交流をいっそうの活性化へ—
- 23: トランプ政権とアメリカ社会

会場へのアクセス



主要駅からのアクセス

- 多摩モノレール「中央大学・明星大学駅」から徒歩1分
- 京王線「多摩動物公園駅」から徒歩10分
- 小田急・京王線「多摩センター駅」下車。バス(13番バス停)で12分
- JR「豊田駅」下車、バス(4番バス停)で15分

その他 ポスターセッションと展示コーナー
(両日開設)